

西洋畫の成績(上)

美術審査委員 黒田 清輝

▲展覽會の西洋畫の成績に就いて概評すれば、至極好良なる方面に向つて發展しつゝあると思つて宜いと思ふ、西洋畫が時勢に伴つて進歩しつつあるのは、争ふ可らざる事實だと、自分は考へる、

▲美術も文學も時勢に伴てそれ／＼發展して行く、殊に日本の様な萬事新開地の有様にある國で、今迄度外されて居た西洋畫が、文部省の展覽會が設けられて以來急速の變遷を遂げて居るのは、敢へて怪むに足らぬ事だと思ふ

▲自分が始めて佛國へ行つて、歸つて來たのが、明治廿六年である、其當時の佛蘭西の風に倣つて描いた自分の畫を、世間では何に角と矢釜しく論じ立てゝ、紫派とか何とか云ふ名前迄付けて騒いだものだ、併し自分は唯佛蘭西に於ける其當時の畫風を學んで描いた迄の事だ、

▲明るい畫が流行して居る最中でも暗い畫が絶無と云ふのではない、矢張り相應に存在して居る、然し今や歐洲を通じて明るい畫の時代となり暗い畫は過去のものとなつた、勿論明るい畫と云つても、人によつて亦國柄によつて、其の間に多少の差隔はあるが、先づ一般に明るい畫を歓迎する時代となつたのである、建築の如きに就いて見ても、大分形式が變つて來た様である

▲吾國の洋畫界も亦此風潮に伴つて明るい畫を描く人が段々多くなり、次第に世人も明るい畫に見馴れて來た、

今より十七八年前に自分の畫を見て異様の感をなした人々も、今日では却つて自分の畫を古臭く思ふであらうと察する、コンナ風に明るい畫が世間に歓迎される様に成つたのは、自分から見れば、慥かに一段の進歩だと思ふ

〔『東京毎日新聞』明治四三年二月二日〕